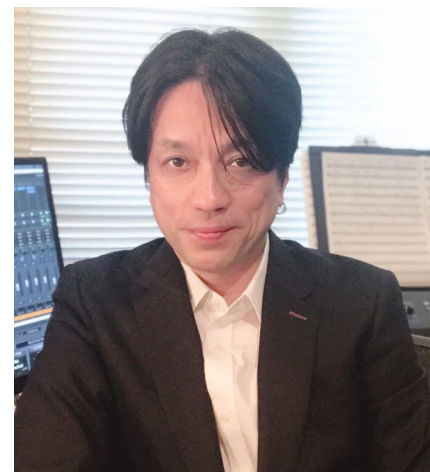


委員 ヲノ サトル



今回は選定企画委員として参加させていただき、たいへん光栄です。自分自身も音楽家としてダンスや演劇などの舞台作品に関わってきた身として、これまでにない斬新なパフォーマンスとの出会いを楽しみにしています。

ご応募いただいたプランは、いずれも音楽という「定数」に、身体や空間や映像といったさまざまな「変数」をかけ合わせて、これまでにない「新しい解」を生み出そうとする意欲的な企画でした。とはいえ、その「変数」はじつに多彩で、選考には熟議を要しました。最終的には、単なるコンセプトの実現にとどまらず観客の心に響きそうかという芸術性の評価から、舞台上の設営や転換は可能か、想定通りの効果は得られそうか、といった現実的な判断も経て、作品が選出されました。

「一息ごとに一時間、あかいくつをさがして」

横浜という土地の歴史を取材する中から新たな物語を立ち上げ、現代にも通じる社会と個人の諸相を浮かび上がらせようという、骨太なテーマに注目しました。歌手一名のモノオペラですが、八重奏のアンサンブルや映像演出も含め、視覚的にも見応えのある大規模な作品になりそうで、上演が楽しみです。

「10 万年前のコントラバス/10 万年後のコントラバス」

今から 10 万年前と言えば人類が世界中に移動を始めた黎明期。その時代に、原初の楽器が次第にコントラバスへと進化していったとしたら？そして今から 10 万年後の遠い未来に、かつてコントラバスだった遺物の断片から再び未来の楽器が生まれていくとしたら？そんな壮大な思考実験をどのように音響化、視覚化していくのか。予想のつかないイメージの広がり期待します。